
Angel and World with selfish

Christina Fox

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel and World with selfish

【Nコード】

N5549W

【作者名】

Christina Fox

【あらすじ】

強大なる力を得る前より人ならざるものである3人の男女。彼女らは何を思い、どう行動し、どのように成長していくのか。――様々な世界の善者という名のエゴイスト達の物語が始まる。

宗教を信仰しておられる方や原作のブレイクが嫌な方はブラウザ or 携帯の「戻る」推奨。

ちと様々な宗教の信仰とは世界の問題等が違います。お気を悪くされたいけませんので戻る推奨。

ちなみにこれはオリジナル展開を大いに含み、原作をブレイクするおそれが多いにあるので嫌な人も「戻る」推奨。

百合展開を書くおそれがあるので自戒の意味を込めGLタグ&am p:R-15追加。

現在ISの世界ですがフラグは立たないと思います・・・

更新頻度遅いとき早い時で落差がありしかも文才がないと思います、ごめんなさい。

「今までのざっとしたまとめというかプロローグ」慣れない口調だけど許して

前々から考えてたものを書いてみようかなという思いつきが原動力となって書き始めました。

ちなみに今回セリフは殆どありません．．．そして語りの口調も主人公の女の子（名前は次回の人物紹介で）が張り切ってるだけで普段の口調ではありませんので。

彼らの物語は、悲惨な「出生」から始まる――

「今までのざっとしたまとめというかプロローグ」慣れない口調だけど許してね

私「たち」はとある世界にいた。そこはあるものから見れば「平穩」またあるものから見れば「理不尽」な世界だ。

現に私たちは「人」ではない。テロメアを半永久的に修復でき、日本の首都を削って作られた街．．．学園都市学園都市で作られた超能力を植えたデザインベビーだ。

そして私たちは様々な「実験」を受けた。薬剤の投与や電気ショック．．．他にも色々あるが天の声がキツイからやめると言ってるからやめておくけど。

何を目的として私達が作られたのは今でも定かではないがどうやら私たちは研究者共の望みを叶えるには至らず、体が人間でもないため破棄も難しい。そしていま大きな事をしてしまえばアレイスターにバレ、私たちが知るはずのない「計画」は潰える。

―そのため安値で売られた、非合法の傭兵会社に。

そこは激戦区だった。兵士って言ったって普通の人間が少々武装した程度。数と技術の暴力に叶う由もない。数日で味方は誰もいなくなった、私たち3人以外には。

懸命に戦った。捕虜にされてもこのまま帰還してもどんな扱いを受けるは目に見えている。恐らくあの忌まわしい研究所以上に過酷だろう。

しかし、もう限界だった。そして敵の攻撃が当たり（人じゃないとはいえ過負荷がかかれば死なないわけではない）私たちは全員「死んだ」筈だったけど．．．

どういうわけか、「管理者」に「次の管理者」として拾われた。

「膜宇宙理論」はご存知だろうか。私たちの住んでいる宇宙とは別に複数の宇宙が浮かんでいるという、あれである。あれの一つの管理者に拾われた。「次の管理者」として。

そして私たちは勉強がてら劳いの意味も込めて膜宇宙のある空間

に存在する「並行世界」を回ってみると言われた。

「戦いもあるが、今まで知らなかったものが見れ、そして成長できる。なに、この私管理者とて有限の存在なのだよ。ヘマもするし、すべてのことができるわけでもない。この有限の世界に生まれたからにはそういう運命なのさ。君たちなら行けるよ。」

なんとも寛大でありがたいお方である。そんなわけで、かれこれ色々回ってみた。欲望のメダルの世界での役割を終え、次の世界へ行く。

次はどういう世界に行くんだろう・・・普通に女の子として過ごせる世界だといいな♪

― 異界の天使、女尊男卑の世界に降臨。

「今までのざっとしたまとめというかプロローグ」慣れない口調だけど許してね

ここまで読んで下さりありがとうございますm(_____)m

劇中のセリフで分かった方も多いと思いますが彼らが生み出された世界は「とあるシリーズ」の世界です。前の世界はこの前最終回を迎えた「仮面ライダーOOO」の世界です。そして次の世界はISです。

とあるの世界でアレイスターが未だ認知していない組織により彼らは生み出されその後拾われ様々な世界を回り技術と人間性を身につけてます。実は前の世界の「キーアイテム」をその基となる有るものを代償に生み出すことも出来ます。

「天界」は様々な膜宇宙の一つですがここも無限に「限りなく近い有限」です。できないことは5本の指に入るほど少ないです。

ごめんなさいこんな文才で。

ちなみに「天使」とは通称です。彼らの戦いぶりなどを見た者たちが勝手に読んでたのが定着し彼らも気に入った、と。(ちなみにタロットカードの通称もあり)

では、次回は人物紹介です。

―前の世界のKeyword「欲望のメダル」

―次の世界のKeyword「パワードスーツ」

さて今回は人物紹介です。
うまく出来ているのか？

通称：天使

女性

ドロシー・キャメロン Dorothy・Cameron

肉体が生まれてからの年は7歳ほど。普通の家族関係でいけば長女。

それでも一応一番の早生まれ。（大して差はないが）肉体が生まれてからの年齢は7歳だが、精神的・体格的には2倍ぐらい成長している。つまるところ年頃の女の子。

容姿はロングの髪に落ち着いた感じの服が主。

髪の色はピンク色を薄くした感じ。ちなみに気分次第で茶髪や白髪にすることも。

身長はレイモンドよりほんのちょっと高い160?台。そこに姉の威厳を見出していたりする。

活発な性格と口調だが口調は気分で気に入った方言とかに変えたりする。たまにおしとやかを気取ったりもするがそれを指摘されると怒る。

戦闘能力と潜在能力は彼女が一番高いがドジ。戦闘の際は主に今まで得てきた知識の応用による物量戦・遠距離戦に特化している。接近戦が苦手なのについては並々ならぬ劣等感を抱いていたものの、シャルの適切な指導により上達しバスターソードを使えるまでに至る。

能力は「光の翼」と言われているが詳細不明。

その一方で人を殺すことは余程のことでもない限り出来ないし（現に出来る限り気絶させたり兵器相手なら中の人間を殺さないことに務めている）あったとしても悔やむであろう優しい女の子だがそれはある意味偽善でありエゴである。戦う人間には向かないと言われることも。多くの人を殺めた傭兵時代の罪悪感が心の中にあり、またそこでの経験がトラウマ。そのため大抵はスポーツであり操縦者の安全がほぼ保証されている対IS戦のほうがやりやすい。

000の世界（未登場）終了後赤のメダル&ドライバーを作るために自身の「生存欲求」を犠牲にしたため、全てではないがその殆どを失っている。後の術式の改良により変化はあるようだが、それでもある程度欲望は持つて行かれるらしい。あと欲望は量Ⅱ強さでは無いとのこと。

ISの世界ではブラヴィシーヴァ（通称：シーヴァ、シヴァ、ブラヴィーヴァなど、シヴァは破壊の神なので違ったニュアンスで用いられることも・・・？）の正式操縦者、また委員会直属の操縦者としてIS学園に入学した。

試合などでISを操縦する際はISスーツではなく00の世界で入手したソレスタルビーイングのパイロットスーツ（薄いオレンジ色）を着る。が普段から着るのには向いていないため急な戦闘の時には私服で装着することも。

IS適正は現状では不明。

ボガール（後述）の襲来によりそれを追ってきたザギ（後述）のデUNAミストとなる。

男性

リーナス・ゲイツ L i n u s ・ G a t e s

実は年の低さながら精神的には一番達観した人。ドロシーとの誕生日の差は1週間ほど。なのに本来なら姉なドロシーに対しても精神年齢の高さ故か兄貴肌である。的を射た発言や助言も多く3人の中では人望の高さ故か人を問わず一番信頼されやすい。が実年齢を知られると引かれたりするのがコンプレックス。

そのため姉の威厳？を求めるドロシーが一方的にライバル意識を燃やしているが軽くあしらっている。

性格は器用貧乏で世話焼き。たいてい世界に入った時の役所での手続きで苦労している。「世渡り上手」とも称される。

趣味は珍しいもののコレクション。中にはヒトラーの肉声のテープなども存在する。が、INDEX（後述）のスペースを占領するのが悩みの種。それが相余って後述の大首領と勝負に勝てば本物のモアイ像を送ってもらうという約束を取り付け、現在そのモアイ像は部屋で椅子として機能している。

容姿は北欧系の青年。身長は170？よりちょっと高い。髪色は黒に近い茶。

戦闘能力はドロシーに一步劣るが判断力・決断力でカバーしている。戦闘スタイルは接近戦も遠距離戦もバランスよくできる。そのためある程度戦術に幅が持てる。

能力はInterceptというものである物質に別の物質を混

ぜること爆発物にしたり打ち消したりできる。

かの一方通行程ではないがある程度のベクトルが操れるため一方通行と同じ事も出来なくもない。

物質は反物質と物質を対消滅させることで真空を作りそこから沸き上がりすぐ消えるはずの物質（実際現実起こることだそうです）を絡めとり使っている。逆に言えば「反物質を操る能力」とも取れる。

こんなに便利なのに「あまり使わない」とのこと。（後述のめんどくさがりの影響が大きいが余り使わないほうが騒ぎを起こさないという面では合理的である）そのためかドロシーが様々な護身用の物を渡すため迷惑がっているが、「オーズ」になるためのものを渡してきたときには迷惑関係なく本気でドロシーのことを心配していた。

最も合理的なことを考えそれができると「終わりよければすべてよし」と言わんばかりにあまり犠牲を払うことを厭わないドライな面もある。

合理性を求める余りめんどくさいことを極端に嫌う。それが染み付いているため合理的でないことも時にやってしまう人間臭いところもある。

「オーズ」になりながらも暴走しないためのとある措置が施されている為暴走しない。がある程度の疲れはフィードバックされる。

専用IS、ブラヴィシーヴァは男性でも女性で言うC＋B＋程度の力しか出せないが使えるため予備の操縦者としてIS学園の実戦授業担当の教師として着任。授業では主にオーズを使う。

が、ボガールがISの世界にやってきたため後述のウルトラマンノア（と言っても力の使い過ぎでネクサスにしかないが）のデユナミストとして戦うことになる。

レイモンド・ドイル Raymond・Doyle

末っ子、とても言うべき存在。知識面では十分に色々な事を知っており精神面ではある程度達観しているものすごく黒い&ある程度悪ガキでは済まない部分が残ってる。むしろあれだけのことがあれば当然のことといえなくもないが。

基本的に己のその場の欲求のままに行動する人。なのでたまに自分の欲望に従い他の二人と敵同士になる↓紆余曲折を経て味方↓また欲に従い敵というサイクル。

容姿はひとことと言うと幼さが残る美形。身長は160?台だがドロシーにかすかに負けるため背が伸びる方法を日々実践している。髪色は黒。

戦闘能力はリーナスと同じぐらいだが思考でなく鋭い直感で動くので正負問わず思わぬことを引き起こすことも。戦闘スタイルは接近戦。能力は不明。

可能性を考えた上で最後の手段として犠牲を厭わないリーナスと違い、犠牲を払うこと＝殺人は楽しいと考えている節もある。しかし、ドロシーの行動により・・・?

ISの世界では傭兵会社に所属、凄腕であるため高給取り。ISも受領しているが能力不明。

ウルトラマン

ウルトラマンノア／ネクス／ザ・ネクスト

怪獣墓場から逃げ出しISの世界にやってきたボガールを追ってきた3大チートウルトラマンのひとりとも称されるウルトラマンだが、M78の宇宙での戦いや無理に空間跳躍を使ったことでチート能力はほとんど使えないがいざというときにはその片鱗が垣間見える。

弱体化しているため中間形態であるネクスとして戦う。更に力を抑えた状態がザ・ネクスだが余り使われることはなくネクスの状況で更に力を失うかわざと力を抑えて戦わねばならない用途に使われるかどちらかである。（例として右方のフィアンマの第三の腕など）

ウルトラマンザギ（旧名：ダークザギ）

ノアと共に怪獣墓場から逃げ出したボガールを追ってISの世界にやってきたウルトラマン。

元々は来訪者という者の星でノアを模して作られたが自分がノアの模造品であることに悩み悪の道に堕ちてしまった経験がある。

ウルトラマンネクス最終回でノアに敗れ宇宙の藻屑となったかに見えたがアクシデントでかの「光の国」がある宇宙に飛ばされ、真人間となり宇宙警備隊で隊員として戦っている。

ノアとは和解し今ではいいコンビとなっている。

怪獣

ボガール

かつてウルトラマンメビウスを苦戦させ、惑星アープを滅ぼした怪獣。とにかく何でも食べて自身の糧とする。

怪獣墓場から逃げ出し何らかのアクシデントでISの世界へやってきた。怪獣墓場で相当量の怪獣を捕食或いは胃袋？の中に貯めているためそれらを吐き出し刺客として差し向けることも。

中にはウルトラ戦士ですら負けてしまうような怪獣からザコ怪獣に至るまでを捕食したことでメビウスの時の個体より圧倒的に強くなっている。

率直なところISでも対処が難しいためノアとザギが派遣されることになった。

ファントム星人

明るく陽気で善良な宇宙人。

彼らの星は深刻な食糧危機に見舞われており、メビウスの時にはボガールの妨害でせっかく作った非常食を地球に落としてしまったためボガールとは少なからず因縁がある。

尚、彼は怪獣墓場にいたのではなく運悪くボガールがいたところを通りかかり食べられただけであり犯罪者ではない。

後述のインペライザーにやられて怪我をしたがネクサスによって治療された。今後どういう処遇を受けるかは不明。

インペライザー

凶悪な宇宙人、エンペラ星人によって創りだされたロボット。神出鬼没、強靱な防御力と自己修復機能、辺り一帯を焦土にしてしまう光線等、ハッキリ言ってチート。

作成者であるエンペラ星人はウルトラマンに倒されはしたものの未だに残っている個体も存在していると見られ、恐らくボガールが怪獣墓場か脱走の途中で捕食したものと思われる。

宇宙化猫タマ・ミケ・クロ

出身不明の怪獣で3匹存在し皆がモヤツとボールのような形をしており、尻尾が全個体にある。また個体によっては猫耳や足が生えている。

最大の能力は有機生命体の記憶や知能を妨害し最終的に自分が誰なのかもわからなくなるといったもの。

この能力によりIS学園の面々は端末の操作方法やISの操縦方法、果ては変身の方法から身の回りの物や人間の情報まで忘れてしまった。

だが裏をかえせば有機生命以外には効かないためザギのみが健全な状態を保った。

管理者

この宇宙（この世）の管理者

名前は人にはあえて明かさないが必要になった時の偽名としてF^ッ
oxとごくたまに名乗る。がいくら名乗っても定着している呼び名
は「管理者」

かなり達観した三文字でまとめればいい人。

自分ならず全てが「有限」であることからすべての人を救えない
ことを悔やんでいる。彼がFox（狐）を名乗るのは善意と現実の
ギャップ故に自分のやることを偽善だと思っているからだろう。

口調は落ち着いていて声質も経験豊富な壮年の男性という感じ。

容姿はわからないというより頑なに見せない。たいていはモアイ
像のちっちゃいやつをその場で作ってそこで会話する。

???

大首領

「大首領」とだけ言われている謎の存在。普段会話する際はタブ
レットPCの液晶画面かホログラムで鷲の紋章（シヨッカーのそれ
に似ているが違つ）を写して会話する。

「ピンクのスイカ」のようなものにやられ、肉体がないらしい。

余談だが作者がユーモラスと書くのは少々自嘲気味に書いていた
りする。ちよつと外れた思考とユーモアの持ち主。

最近ボガールが襲来したためおおっぴらな動きがしにくくなっている。

兵器・力・変身形態・・・etc

仮面ライダーオース タジャドルコンボ

身体的スペックはタジャドルまんま。違いは変身時に自動的にタジャスピナーにセルが代償を払わず7枚入ること。+3人それぞれの戦闘スタイルや能力が付加されたりそれに最適化されること。

000の世界を回ったあと、ドロシーがある「代償」を払ったことで赤のメダルができた。ドライバーも同じ製法。

メダル&ドライバーを作る「代償」とは「欲望」そのものの。

ドロシーの欲望と人体に無害な術式で完成する。800年前には成し得なかった製法。しかしそれ故に術者に負担がかかり、また術者の欲望をもとに作ることからドロシーは赤のメダル3枚とドライバーを作るだけで「生存欲求」の殆どを犠牲に（映司と似ていて、完全になくなったわけではない）してしまった。

「生存欲求」は赤のメダルの必須要素らしいが詳細不明。状況によって代償を払うことは毒にも薬にもなる。

現時点ではサゴーズ・タジャドル・ブラカワニ・カンガルー&パンダ及び前記の系色による亜種形態なら使用可能。タトバの出番（ry

ブラヴィシーヴァ

ISの世界で作られた汎用IS。

各所に取り付けられたスラスターがこの機体の中核をなす。スラスターはシールドエネルギーを持ち、分離・再合体が可能。更に内部に大容量の拡張領域（量子変換とベクターラップなどの併用）を持ち外側にはビーム発射口などの各種武装があることから実質ISに等しいが最大の違いは内蔵されたAIのHAROが本体の操縦者による操作という点。

処理能力がアヌビスのAI、DERUFIの一部の移植や魔改造等によってCB製のHAROより高いのが利点。

また装甲も分厚く硬い上両肩に着脱自由のセンサーシールドを持つ。

センサーシールドを含め機体の面積ほぼすべてがスラスター+コンデンサと化しているため機動力も申し分ない。

動力は高純度+ツインドライブ仕様の擬似太陽炉×2とISのコアに加えてメタトロン対消滅炉の動力などに切り替えられる。切り替える動力の種類はかなり量がありオプションがきくが主に使われているのは上記3つ。

またANUBISという現時点で一部の学園関係者と委員会しか知らないものをシステムの中核にしている。

今までの世界の技術を精力的に身につけものにしたドロシーならではの機体。

武装は

ビームサーベル×2（

シザービット×10（スラスター1個ごとに）

ライフルビット×2（スラスター1個ごと。またピストルビットとあるビットに分けられる）

ピストルビット×2（スラスター1個ごと）

???ビット×2（スラスター1個ごと）

メダルスロット×1（左腕にマウントされているオーズのバックルに酷似したスロット。同系色メダルのコンボでの固有能力や亜種形態での機体各部への諸能力追加など。故にオーズとの連携によって真価を発揮する機体でもある）

ゼロシフト（ベクタートラップという機能を用いて自機の周囲の空間を圧縮、復元する際の反動で亜光速移動する。光速に限りなく近いいため実質擬似的な瞬間移動であり、なおかつ移動中はダメージを受けない）

バスターソード（アルケーガンダムとほぼ同型の武装。唯一の違いは一部にメタトロンが使われていること。メタトロンが持つ性質のためある種のカメラには映らず表面へのGN粒子コーティングと併用することである程度刀身を再生できる利点がある）

その他書き切れないほどの武装を拡張領域に収めている。故に名実ともに「歩く武器庫」となっている

これまで使用したコンボ

サゴーズ

重力操作や防御力の上昇、地震の発生や地下の状況をソナーで感知するなどの能力を持つ。

主に重力操作による敵の足止めやそれを応用した射撃による攻撃という名のなぶり殺しに使われもする。

場所

書店「INDEX」

基本的にこれが居住地として世界を回る。地下にある格納庫にはガンダムサダルスードType-Fとちやっかり回収したアーマーンアヌビスの機体があるが出番はほぼない。

毎回自営業としての免許と許可とかををとりに行くのにリーナスが苦労しているのは別の話。
本以外のものを売ることも。

世界

00の世界

最初に回った世界。ここでは3人が対ELS防衛戦に巻き込まれる。そこで彼らがとった行動は・・・

この世界ではガンダムサダルスードType-Fをフェレシュテの許可を得て接収、以後の世界で使用している。また、MSや太陽炉のデータなども得たためブラヴィシーヴァにサバーニヤなどのシステム・武装の一部が強化・流用されている。

〇〇〇の世界

今の世界に来る前にいた世界。ここでは徳川吉宗に献上されたメダルが現代まで受け継がれそれが紆余曲折を経て今の時代で起こした事件（詳細は余り語られないが冬映画とは違うガラの事件がなかったパラレル世界の現代の事件）に関わる。

実はここでドロシーがコア・セル及びドライバーの作り方「錬金術を独自で作っているが、それは大きな「代償」が伴う不完全なもの。

しかし術者への「代償」とちよつとした機能の追加＋低下以外には全く不備はなく、更に徹底的に欠点と長所を洗い出し改善すべきところは改善したため性能等は〇〇〇が使っているものと差はほばない。

また、暴走を回避するための処置も取られているが・・・？

ISの世界

現在3人が住まう世界。ラウラ・シャルの転校頃に到着。

この世界で術式が大幅に改良され、失う欲の量も最小限で済むが少なからず欲望の喪失は避けられない。

理事会・国連等には束の助けもあり折衝を行った。またIS学園とも後に折衝し「委員会所属」のIS操縦者としてのドロシーの入学及びリーナスの着任という形で合意する。

ここで格納庫のOFやMSなどの機体や今までのオーメダルなど

の技術をフル活用したIS、ブラヴィシーヴァが完成する。

もともと委員会直属となっただのは後継者育成の意味合いもあるため、世界を離れるまでに後継者を育てておかねばならない。

学年別タッグマッチの前にボガールが怪獣墓場から逃げ出し空間跳躍でやってきており、それを追ってノアと改心したザギがISの世界に来てドロシーとリーナスをデユナミストとする。

???の世界

現状でよくわかっていない世界だが、ここで仮面ライダーカブトⅡ天道総司と会ったことが確認されている。

Z・O・Eの世界

時系列的にはANUBISの世界にも行っており、ヴァイオラAⅠの侵入で放棄されたアージエイトをドロシーが乗機としていたが接收はしていない。

最終決戦でアーマーンアヌビスを爆破させず、ある方法を用いてアーマーンを破壊。アーマーンアヌビスは接收された。

また光の国を知っており、ノアやザギとも面識があることや共に戦ったことがあることからウルトラマンが存在する世界のどれかを回っている可能性がある。

その他様々な世界を2桁前半強回っている。

設定が追加され次第、随時更新♪

多分うまくできた．．．かな???（半信半疑）

タジャドルは今後結構出ます。ネタバラしたけどいいのかしら？

???↑

ちなみに水をくむ女神・死者の神とは巨大ロボットですがロボア
ニメ・ゲーム好きな人ならたぶん分かるかも。あ、あとホビージャ
パンを長年読んでる人とか。

過去話は気が向いたらやります。実は異能の力がない世界にも行っ
ていますのでそれも書きたいな><

2011/09/24 追記：設定集にタイトル変更&改訂。
人物だけじゃなく設定もかいてたので．．．

2011/10/02 再改訂：IS等についての設定を追加しまし
た。

2011/10/22 再改訂：世界設定やゼロシフト、ウルトラマ
ンや怪獣についてを追加しました。

2011/11/13 再改訂：ノーマルスーツ（正しくはパイロッ
トスーツ）などの誤植の修正と設定の追加をしました。

関係ないだろこは・・・【苦勞人SIDE】（前書き）

うまくは出来ませんができるだけやってみます。

今回はタジャドルを出したいと思います。

変身者は・・・？

関係ないだろこは・・・【苦勞人SIDE】

— Linus Side

ったく、あいつも飛んだ姉さんだな・・・いつもいらないって言うてるのに護身用のもの送りつけてきやがる。

けど今回だけは状況が違う。なぜならば、それは「絶対にあいつが作れるはずの無いもの」だからだ。

・・・3枚のメダルと、オーズのベルト。こんなものを現実にあいつが作ってる。だとすればあいつは自分の、いや「生物の根幹をなすもの」を犠牲にしている。

あいつは笑ってた。確かにこれは俺にとっては必要なものさ。けど、それであいつの幸せがどこにあるのか…

俺には到底理解し得なかった。

だがまだやることがある。役所の手続き、これをすませないことにはまた法の上での面倒事が起こる。

— そのの下調べだけは、済ませておこう。

そう思い、俺はそのとんだ「貰い物」をロングコートのポケットに入れ、外に出払った。

— Side Out—

— Dorothy Side

やっぱバレてるよね・・・仕方ないか。あの子はすごく頭がいいから。

私は自分の「欲望」を犠牲にメダルとドライバーを作った。

・・・それがどんな事なのか、わかってる。

でも、あの子を守るためにはどうしても必要。それも、純然たる

事実だったから。

― 体は作る前より軽くなった。だけどやっぱり楽なものじゃないね。
『生存欲求』がないのは・・・

― Side Out ―

― Linus Side

はあ、ここは飛んだ世界だ。とびきり飛んでやがる。

インフィニット・ストラトス・・・たった一人の科学者により開発されたそのパワードスーツは、「女性にしか使えないもの」。しかも兵器として性能が申し分ないときた。そして「白騎士事件」が起こりその兵器としての性能と「女性限定」という特性、それにより各国が女尊男卑の制作を打ち出し市民もそれにならうかのように女尊男卑、ね。

と、なると否が応でもドロシーに頼らざるをえない。オーズはこの世界でも規格外だからな・・・

よし、こうなれば背に腹は替えられない。ちよつと理事会と「開発者」の方に頼るか。「開発者」の方はオーズの力を使っておびき出す。科学者は自分の知識の及ばぬところに興味を抱く、不本意だがフツ、噂をすれば・・・「前の世界」ぶりか。丁度良い、手間が省けたよ。

― Side Out ―

― 3人称 Side

リーナスが気づくと同時に「前の世界」での「神出鬼没な敵」・・・が現れるかと思いきや、鷲の紋章を模したマークを写したタブレットPC状のものが浮遊して現れた。

関係ないだろこは・・・【苦勞人SIDE】（後書き）

やはり間違ったところ、至らないところは出てくると思いますがそこを直して精進していきたいと思います。

リーナスがモアイ像に関して乗り気なのは、リーナスの趣味が珍しいものを集める、というもので

負の世界遺産↓お持ち帰り& a m p ;壊すのダメ↓すげー珍しいじゃない、と。

今回表に出たことはコレクション含め設定の方に追加しておきます。

現代の剣と悲しみと単純な興味と【苦勞人Side?】（前書き）

今回はリーナスと私の頭フル回転な回。

自信はありませんが、見てもらえると嬉しいです。

現代の剣と悲しみと単純な興味と【苦勞人Side?】

— Linus Side —

さて、威勢よく変身したはいいが．．．いかんせん、量が多いなけど助かった。ここはINDEXへの帰り道の伐採された森だ。うかつに力を使わなければ周辺に被害が及ぶことはない。

敵のジャブを躲しながら打開の策を考える。敵の能力は未知数で数が多く、オーズには初めての変身。こういう場合、事前に己の能力を知っておかないとヤバイ。が、それをいくつか見てきた俺にならわかる。こういう場合は、

「ハアッ!!!」

クジャクウィングで飛翔する。まずこの数が多い緑色の攻撃を避けなければならない。さすがにこの量を「同じ土俵で」相手にするのは無謀だ。なら簡単、相手のハードルを高くする。このコンボなら飛翔する以外にもっ．．．

「虫には虫眼鏡!」

高速で飛行しながらタカの目で相手の大まかな構造を把握する。この緑色は名実ともに「サナギ」だな．．．中であの茶色のガミたいなのを成長させてる。

同時に茶色のガミたいなのの構造も把握する。触手による攻撃と超高速の移動能力、か。

「まとめてお陀仏!!!」

一斉に羽根手裏剣とスピナーの炎をぶつける!

— Side Out —

— 大首領Side —

「ほう．．．」

思っていた以上に使いこなすな。これが天使の實力、というわけか。

現に今残ったワームは10体ほど、ほぼ10分の1。やってくれるよ。

ただ、オーズが作られ、私の目の前に出てくることは予想していたが、どうも元の世界のスペックと違う。大方ドロシーとやらが一枚噛んでいるな。

だが、あの雌狐もこれを作ったということはタダでは済まない。

これ以上は無意味だな。残念だが、この戦闘からは手を引く。

．．．我が軍の兵士たちに哀悼の意を表する。

—そのとき一瞬だけ、彼の精神から「大首領」としての面影は消え去り、純粹に同胞の死を悼む人間としての姿を見せていた。

—Side Out—

—Linus Side

後10体だが気が抜けない。今まで3体ほど成体？になったものを倒したが破れかぶれに倒してる．．．正直、体力が持たねえ。

アイツのことだ、「ゼロシフト」は用意していないだろう。

アレはヤバイがスピナー以外に武器がない今の状況じゃどうしてもいるんだよな．．．こういう場合360°まんべんなく攻撃できる力があるが羽根手裏剣やスピナー、プロミネンスドロップは180°。までしか攻撃できないし飛翔しても茶色のガの触手で捕まるのがオチだ。けど無い以上、今の戦力で戦うしか無い。

ギガスキャンという選択肢も思い浮かんだが、どちらかというと使えるものは使い倒したほうがいい。現状戦力をまとめると

タジャスピナーの中のセル：7枚

ドライバーの赤コア：3枚

オーメダルネスト（ドライバーの左側のメダル入れ）のセル：3枚

．．．まで、何か足りない。待てよ、これしか作れなかった理由は800年前の錬金術士が作ったからだ。なら、現代の技術ならドロシーでも．．．！

「そゝいうことかよ、畜生」

息を荒くし、成体？の攻撃を避けながら理解する。灯台下暗しつてやつか。

「そういうこと．．．？フツ、どちらにしる100対1など天使でも無理だろう！」

「うるせエ吠えたきや勝手に吠えてろ。言つとくけど俺の姉貴つてのは、言うべきことを言い忘れてる。こういうことは覚えりや良いのに、気が抜けてる！」

言いながら俺は現代の技術によって作られた剣、メダジャリバーを召喚する。．．．やつぱりな。

「業物がひとつ増えたところで．．．かかれッ！．．．！」
10体ほど一斉に高速移動してくる。

「そのひとつの業物の業、見せてやるよ！．．．！」

大体飛び道具のない相手の攻撃方法は．．．四方から向かってくるしか無い。ならこれで！

セルメダルを瞬時にメダジャリバーにセット、一発軽く攻撃を食らいながらもスキャンする！

『Triple．．．Scanning Charge！．．．！』

「Turn to the Slashing！！」（回転して斬る！！！！）

叫びながらの斬撃。その刹那、空間ごと茶色のガの怪人を含めた10体が「空間ごと切れた」。

—Side Out—

「??? Side」

むー、今日という日は不思議な日だねえ．．．この天才束さんに理解不能なことが起こっちゃう。それも何度も。

某掲示板のスレに載っていた伐採された森の近くに突然現れたヨーロッパ風の建物。（防犯カメラ傍受して得た映像によるとINDE Xって本屋さん）特撮番組にでも出てきそうな怪人、そしてISではない異形に赤いメダルとベルトで変身し大量の怪人を倒す男、か。「これは直に接触する必要があるね．．．手土産も作っとこっか」もしも相手が交換条件を出してきたとのために「手土産」をつくっておかないと万一のこともあるしね。」

「さーて束さんはりきっちゃうよー!」

ISの開発者篠ノ之束はリーナスの思惑通り、リーナスへの接触を決めたのだった。

「Side Out」

現代の剣と悲しみと単純な興味と【苦勞人Side?】（後書き）

と、いうわけで束さん登場

ドロシーはドジなためメダジャリバーがあることを話し忘れてます。話したのは

- 1・使えるコンボはタジャドルのみ。
- 2・セルメダルはスピナーの7枚＋ネストの3枚で10枚。
の2点のみです。

あとINDEX（設定集参照）は今回は伐採された森がネカフエ＋役所への近道の町外れに飛ばされました。

今回リーナスは情報収集＋役所へ行くはずが散歩癖で森を歩いて超えたらまたまネカフエがあつたためそこで情報収集その後手続き↓帰り道の森で大首領に遭遇、と。

束さんは某大型掲示板に載つてたのを偶然発見↓興味が湧き傍受＋小型の機械で跡をつける↓戦闘を目撃という感じ。

粗がありすぎますね・・・ううむ。

悪い所がありましたらどうぞ指摘いただけるとありがたいです。
できるだけ直して精進していきます。

接触 イレギュラー (前書き)

今回はついに空気だった↑IS要素を出すことができそうです。
しばらくは学園ではなく、国家や国連との折衝になると思います。
駄文ですが読んでもらえると嬉しいです。

接触 イレギュラー

—Linus Side—

さてと、アレから一夜明けたか。山中でやりあったとはいえ、さすがに誰も嗅ぎつけないことはないだろう。

特にISの開発者、篠ノ之束なら嗅ぎつけているに違いない。この時代は21世紀だ、インターネットという便利なものがある。それにあれほどの技術を持っていれば「秘密裏に」ここに機械を送り込むことぐらいは容易のはずだ。

朝だしコーヒーでも飲むか。サイフォンだから時間がかかるが、そこがいいのさ。

—そーいやオーズの件やら戦闘やら役所仕事やらで言い忘れてたがレイモンドはやはり抜け出してたな．．．傭兵として自分を売り込みに行ったのだろうか、だとすれば不本意ではあるが「また」敵同士になるかもな．．

—Side Out—

—Dorothy Side—

しかし飛んだ世界ね、ここは。けど女尊男卑ということは、なおさら私が動かなければならないということかな．．．

—リーナスが前の世界で出くわした怪物の集団と戦ったらしいけど、そうなる尚更コアメダルの必要性が増えるわね。

．．．唯一なくなっても出てくる欲望は、「その場限りの欲」かし

ら？

だとすると次のメダルは「灰色」だね、まずは術式をできるだけ改良してそれから作るのかな！

— Side Out —

— 束 Side —

さてと、手土産は作ってあるね。「この世界でのもう一つの交渉カード」、彼らが飛びつくのは間違いない。

そして適正をCかBぐらいまで落とせば男性でも使えるようセットしておいたから、条件は万全のハズ！

「はい天才束さんのご登場だよー！」

チャイムを悪ガキのように鳴らしながら彼を待つ。10秒ほどして彼が出てくる。

．．．近くで見ると、やっぱり戦い慣れた目をしてるね。

「自分でよく言うね。で、要件は何かね？」

彼が口を開く。チャイムの件についてはスルーしたけど。やっぱり欧米の皮肉屋な声だ。

「ちょっといい物と、色々聞きたいことがあってね。」

「そいつはいいや。話せる範囲なら話してやるよ。で、手土産はいつもらえるのかな？」

「今渡しておくよ。その代わり、きっちり話してもらっからね。」

やっぱり食いついてきたね。それを口には出さず私はポケットから指輪型の「それ」を渡す。

「はは、やっぱりISか。ありがたく頂戴しとくよ。．．さて、話すんなら部屋の中がいいだろ。入るか？」

「おっけー」

知的好奇心をそそるものについて徹底的に聞くため、了解の意を示す。さて、どんな答えが返ってくるのかな？

—この後彼女は知ることになる。「普通なら知りえないこと」を。

—Side Out—

接触 イレギュラー（後書き）

ようやくこの作品の2大空気、IS要素とレモンドくん↑

少しですが出ることが出来ました。次回辺りに本格的に出せるかな？

― 追記

ちよつと作者が風邪引いてしまったので更新が遅くなるかも・・・

投稿がなぜこの時間かというと前日出来て寝落ちして投稿できなかったものを風邪引いてしまって休みということになり今投稿しただけです。

決してズル休みして（ryではないです。治すよう努めます・・・

脅威は唐突に〜2つめの天使の力と3人目の傭兵〜（前書き）

ようやく空気だったあの人のセリフが出せて感無量（苦笑）

更に、000の新たな形態の布石もちらつと・・・？

オーズ編を書こうか迷ってます。設定集でせつかくそこで起こった事件を出したので。ただ長くなりそうな感じが・・・orz

脅威は唐突に〜2つめの天使の力と3人目の傭兵〜

— LINUS SIDE —

はあ、めんどくさいが無いよりはマシと言うより四の五の言っ
てらんないか。世界から見りゃ、俺たちは立派な「異物」だ。大抵の
ものは恐れ慄き命乞いをするものもいる、当然のことだが。

ただ、あの女は受け入れた。興味からだろうが、それはとてもあ
りがたいことだ。俺たちは対等な立場で物事を進めたいしその代わ
り余計なことをして争いの火種を生むことも避けなければならぬ。

— まさしく福音だよ、折衝に関しては「姿を見せない形」での協力
とコアを始めとした技術面でのサポートとは。

その彼女が用意した折衝の場、INDEX。なぜここを指定した
かといえば、万が一怪人が来た際にその脅威を間近で見てもらうた
めだ。場所は割れてるし、一応お札っぽいもの（占星術とか苦手だ
からよくわからん）で守られてるから有事の際は俺が出ればいい。

．．彼は知る由もなかった、その福音の名を冠した機体と運命的
な出会いを果たすとは。

— SIDE OUT —

— Dorothy SIDE —

もう、灰色のメダルの制作が遅れちゃったじゃない。一応できたことはできたけど……

遅れた理由はリーナスが女を引つ掛け……あ、違った、リーナスが篠ノ之束と会ってISをもらったからだよね。好きにチューンしていいって言われてるからいざという時のために付けられるものをつけておいて装着とか名前つけたりとかした後一次移行したんだっけ。

色々考えたけど、ミイラの神はもう最強の状態で保管してあるし水を汲む女神はチューンしたF3をシャルさんとシェリリンからいただいできてる。この2機の名前を除いて考えるのが大変だったけど、「Bravissima」で落ち着いた。
ブラヴィシヴァ

ぶっちゃけると考えるのめんどくさくなってヒンドウの近世教義トリムルティ（三神一体）に出てくる創造・維持・破壊の神様を一緒にした名前。……中2っぽくたっていいのかっこいいから。

さて、査問会には私も出なければならぬということとISを待機状態のままあちらに預けて質問に答えたり進言したり頭痛いよ……

さて、争いの火種になりかつ閲覧できるデータを覗いたり高度な暗号化をかけたたりした愛機はいつになったら戻ってくるのかな……

—SIDE OUT—

—Raymond SIDE—

設定だけで忘れられてるかと思ってたが、いいじゃねーか出番があるってのは。

俺はいま傭兵会社で働いてる。基本自分の欲の赴くがままやってくのだ。そーすりゃ楽しいねえ。

ISもある。どうやらシステムをクラックして使えるようにしてあるようだ。それにいつでも寝返れるように策を打っている。

．．．その時が来たら楽しませてくれよなあ、ねえさんよあ？

—SIDE OUT—

—理事会SIDE—

やはり放おしておくのは良くなさそうだな、ISは3・5世代機とはいえ、それ以外にも兵器を保有するという得意な姉弟だ。しかも条件さえ揃えば太陽系が丸ごと消滅するほど、しかも止めることは今のアメリカらが作った「銀の福音」でも極めて困難。極め付きは彼ら姉弟の存在が「異世界人」であり「人外」であること。

．．．野放しにも出来んが、データなどは欲しいし向こうの要求は飲めるだけ飲むべきか。だがヤラレっぱなしも嫌だから交換条件に小手先調べとでも行こうじゃないか、Angel？

—SIDE OUT—

脅威は唐突に〜2つめの天使の力と3人目の傭兵〜（後書き）

今回でレイモンド & amp; 理事会や専用ISの公開ができたので、次回はようやく名前の長いIS、プラヴィシーヴァを出せそうですね。

3・5世代相当なのはブラックボックスやデータの抜き出しを行なつての状態なので実際の性能は・・・？

専用ISの略称は設定集の更新と次回でだそうと思います。

相当なゲテモノマシンなので早く書けるように頑張りたいかと。

風邪が治らないのが気がかりですが適度に気にしつつやってきたいですね。

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生とく　(前書き)

今回はようやくISでの戦闘。

タイトルで手合わせの相手は分かったかも知れない・・・

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生とくく

— LINUS SIDE —

やっぱり手合わせを求めてきたか。それもISとドロシー縛りでアメリカ代表とこの前の戦闘があったあの森でかい……
両者に怪我とかないことを祈ろう、弟として。

— SIDE OUT —

— DOROTHY SIDE —

手合わせ……。か。データを解析されても困るから「本体に」データの抜き出し&mp;暗号化を仕掛けてあるんだよね、やっちやったかな。

そう思いながらもISを装着する。相手のISを見るとなんとなく00の世界で見た映画とデータの金の機体を連想させるフォルムだね。名前は「銀の福音」シルバリオ・ゴスヘルだっけ？
とにかくやるのみ！

— SIDE OUT —

— 3人称SIDE —

「模擬戦開始！」

その合図と共に双方が構える。

「ライフルビットテンカイ！ライフルビットテンカイ！」

黒に近い灰色の機体に内蔵されたH A R Oの電子音声スピーカーにより背中的大量にある36機スラスターから6機のビットの展開を告げる。その刹那、大量のビームが一斉掃射される。

．．．しかし、銀の福音の主武装、「銀の鐘」^{シルバー・ベル}の36門の放ったほぼ同数のレーザーにより全て相殺された（．．．．．）のだ。

「やるじゃん！」

「お互いに、ね！」

少しの間の後、ナターシャが左手にライフルを持った状態で左手の剣により斬りかかる。それをビットを使わずに粒子変換したGNピストル？を立てて相殺したドロシーが微笑を浮かべると同時にH A R Oが「隠し玉」の存在を告げる．．．！

「シザービットテンカイ！シザービットテンカイ！」

「なんのつも．．．ひゃっ！？」

脚部にある背中と同型のスラスターから10機の時速56万km、かのELSよりも高速なビットが瞬時に手持ちの武器と肩装甲、そ

して銀の鐘（主武装の羽）を潰すとともに福音のシールドエネルギーが大きく減る。

「くっくく . . . D a m m y o u !」

母国語の英語で彼女らしからぬ大声を上げ蹴りを入れて突き放すと武器を出す。が、それは「ドロシーが考えていたとおりの動きだった」

「やっぱりね！．．．No you Don't！」

蹴りの衝撃を利用し大きく離れると素早く英語に英語で返しつつ彼女の背丈の半分はあろうりボルバズー力を出し、それと同時に腕の3つの投入口に「灰色のメダル」をセツトした。

「SAGO-ZO!」

歌のような音が森に響き渡ったその瞬間、福音の動きが完全に止まり地へと落ちた……

| 理事会SIDE |

モニターに映る福音の動きが止まった瞬間、私の脳にある可能性が浮かんた。

「AICか？ いや、だが……」

データにはAICなど何も記述がない（・・・・・・・・・・）のだ。となると・・・

「メダルの力か…っ」

唯一データに記載してあったメダルのシステム。「パンドラの箱」と記載され全容が開発者にすらわからないブラックボックスなら、不可解な現象と行動に全てに合点が行く。

他の理事の一人が今これを見ているすべての人間に思い浮かび口にするだろう言葉を真っ先に口にした。

「ドーロシー・キャメロン、なんという女だ…」

私達理事はこの戦闘をただ大口を開けてモニター越しに見ることしか出来なかった。

—SIDE OUT—

—NATASHA SIDE—

私のISの動きが各系統が無事にもかかわらず止まったと思いきや、重力などを軽減してるはずなのに上から灯油の入ったドラム缶でも落ちてきたかのような重さを感じながら急激に落ちた。

「What the…!?!」

ハイパーセンサーにより一瞬武器を構えた敵のISが見えたが、その後視界がゆっくりと真っ白になった…

| S
I
D
E

O
U
T
|

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生と？く（後書き）

スラスターはサバーニヤのホルスタービットのような役割を兼ねています。ちなみに本家と同じで分離も可能。背中の36+足の8+腕の7（左腕だけ1なので7）肩の8+腰2、合計61機のスラスターが干渉しないような配置で装備されてるゲテモノマシンです（オイ）

中にはライフルビットの他、シザービットも収められたりとか。左腕にメダルスロットが3つあります。今回はサゴージの

重力でしたがタジャドルや他のコンボ・亜種での能力も理論上可能。Z・O・EのOF要素が出るのはかなり後です・・・話的に最大の機能をここで出したらまずいので。

設定集の更新は後々になるかと思っています。

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生とく　(前書き)

戦闘シーンは長く書くのが難しい・・・
ようやく邂逅かな？

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生と？く

理事会SIDE1

やはりあの機体とあの女は異常すぎる。センサーシールドを外し中核であるANUBISも使わずスペックを出しきってないにかかわらず銀の福音を数分で倒すとは・・・やはり要求を飲む必要があるようだ。なにより彼らの要求はは各国の国益になることでもあるし世界的に見ても未だ無くならぬテロや戦争への抑止力があることは良い事でもある。

そろそろ決議にすべきか。

「諸君、彼らの要求を飲むことには賛成かね？」

「無論そうです。」

「あんなものがもし暴れでもしたら責任問題になりかねんし管理下においておくことは重要でもある。賛成しよう。」

「紛争などへの抑止力として、また学園での各国次期候補の訓練にも大きく役立つでしょう。賛同いたします。」

全会一致で彼らを委員会・国連の管理下に置くことや彼らに乱用しないという条件で独自行動権を使わせることまたIS学園へのドロシーの入学とリーナスの教師としての就任が決定した。

SIDE OUT

一夏SIDE

SHRの時間だ。にしても千冬姉とか山田先生とかが妙に慌ただしいけど何があつたんだろうか？

「今日は転入生と新しい先生が来られます！」

3日間で3人目に新しい先生ってどういうことですか山田先生・・・

「失礼しまーす／失礼するぞ」

例の二人だろう男女が入ってくる。どっちも美男美女だな。

「えーと、ドロシー・キャメロンです。一応委員会直属の操縦者ってことになってます・・・よろしくお願いします」

自己紹介の途端教室が湧き上がったなー。・・・ん？「委員会直属」って言わなかったか今！？

「え？委員会直轄ってどういうこと！？」

「代表候補生なの！？」

「静かにしろ！厳密に言つと国家代表ではなく委員会直属の操縦者だ、つまり実力はお前たちより高い」

千冬姉の発言でまた湧き上がってしまったが鶴の一声で止まった。

国家ではなく委員会につてどんだけだよ・・・

「同じく委員会直属のリーナス・ゲイツだ。実戦での授業を担当する。ま、よろしくな。」

「キヤアアアアアアア！！！」

「北欧系の男性！しかも超イケメン！！！」

女子大歓喜。

「静かにしろあ！！！！・・・キヤメロンの席は布仏の隣だったな、座れ」

「ただ俺は肝心なことを忘れてた。実戦の授業が今日あるということ・・・」

S I D E O U T

ラウラ S I D E

「実戦の授業の時間になった。恐らく教官のことだ、あの教師もしくは転校生と手合わせさせるつもりだろうが私は負けない。勝てる自信がある。私の機体を持ってすればたとえ委員会の操縦者であれ倒せるはずだ。」

「ではラウラ、オルコットはキヤメロンとゲイツを相手に模擬戦を試してみる。・・・実力を確かめたいのは皆同じだろうしな」

待ちかねました、教官。

味方全員がISを装着した。そして敵側がISを装着するかと思いきや、教員の方がバツクルを装着し赤色と灰色のメダルをセットして丸いものを手に持ち叫んだ。

「変身！」

「TAKA！ KUZUYAKU！！ ZOU！！！」

瞬間、彼の体が全身装甲のISのようなものに包まれた。

SIDE OUT

Dorothy SIDE

私がISを装着したと同時に模擬戦が始まる。今回はセンサーシールドも付けたから、準備は万全のハズ！

「負けませんわよ！」

青い機体からのビットが射出されるけどそんな物の数じゃないよ！

「シザービットテンカイ！シザービットテンカイ！」

足装甲からシザービットとリボルバーバズーカを出し、バズーカとビットの1個を手に持ち残りのビットは敵のビットを叩くことにした。

「くっ！」

首尾よくビットを殲滅するとさすがにあっちにも余裕が消えてきた。2機による一斉攻撃が来るけど、センサーシールドのフィールドで防ぐと余裕どころか焦りが見えてくる。そしてなにより

「うおおおお！」

「なに！？きゃっ！！」

背後にいるもう1機への注意も、消える。．．背後に隠れてたタカジャゾのズオーブンストップ（ぐぐってください）が決まって、青い機体1機撃破。

「やはり任せられん！」

敵の一揆がそう言うと同時に急にISが止まった。AICかな？

「お前のようなものなど．．．」

「生憎だが、2人いることを忘れてないか？」

リーナスの重い蹴りが決まる。

「Nice！」

「You are welcome！」

機能の戻った喜びでサムズアップを交わし、また敵機に向かう。

「そろそろ決めよつか！」

「ああ、自意識過剰にはガツンとかましてやるよ！」

「誰が！」

敵機が手刀で向かってくる、けど遅いよ！

「GIN！ GIN！ GIN！ GIN！ GIN！ GIN！
GIN！．．．GIG SCAN！」

「チャージカンリョウ！チャージカンリョウ！」

「「Shoot！！！」」

リボルバーバズーカの出力をギガスキャンとあわせて絶対防御が効く範囲内にして、打つ！

SIDE OUT

福音は戦いの合図　く破壊と創造と再生と？く（後書き）

なかなかうまく書けませんね．．．経験を積もう。

寝れないので更新がこんな時間です。睡眠薬よ早く効け。

シザービットは手持ちで使えるようになってます。投擲しやすいのが利点になります。

ズオーブンストンプとはゾウの足をあわせて巨大なゾウの足でキックする技です。落ちる際に重さが加算されるので相当な威力ですが本編では使われてないという．．．

また委員会直属というのは端的に言うとなれだけの性能を持った機体とオーズは各国が欲しがるはずだから委員会直属としておけば揉めなくてすむだろうということです。

委員会というのは大体の国が所属しているので早期解決が求められる紛争の鎮圧や有事の際には出撃命令が出たりしますがね。まあ要はお偉いさんに都合よく使われた、と。

真実は唐突に（前書き）

持病の病状悪化・・・orz

小遣いの少なさによる金欠と書店が地元に無いため原作は買えてないのですが（そのためオリジナル非常に多めにする予定）できるだけ頑張ってみます！

真実は唐突に

3人称SIDE

ドロシーの入学から2日目の土曜日になると、ドロシーの接近戦は上達してきていた。理由はシャルルの指導方法だ。

今までの指導方法は

某おでん大好きな戦う医者「わかんなくてもやってりゃなんとかなるって！」

某熱いテニスプレイヤー「お米食べろ！」

某鍛錬と太鼓の達人「鍛えれば強くなれるよ！」

つまりまともな教えられ方をされて来なかったのである。しかしシャルルの場合

「接近戦が苦手なのはドロシーが接近戦の時だけ動きが直線的なのと闇雲に武器を振って太刀筋を読まれやすいのが原因だと思っよ。射撃で敵を近づけさせないにしても限界があるからね」

「うつ、ごもつとも・・・」

「でも克服すればなんともないよ。現に強いからね、ドロシーは。じゃ一夏も入れて近接戦闘の練習してみようか」

一夏もドロシーも近接戦が苦手、という面では同じなので一緒に指

導したりとかなり人に物を教えるのが上手いのである。．．．一夏に教えられず箒達三人は不満気だが。

そしてひと通り練習が終わった頃、アリーナの空気が変わった。

「．．．ラウラか」

近くでも暇そうに読書をしていたリーナスが空気を変えた存在の名を呟く。と同時に監督席に二、三言端末で通信する。

「俺に何か用か？」

一夏が質問すると同時に白式の回線越しに声がする。間違いなくラウラ本人の声だ。

「貴様も専用機持ちらしいな、ならば話が早い。私と戦え」

「嫌だ、理由がねえよ」

「貴様には無くても私にはある」

一夏は第二回モンド・グロッソ決勝戦の日に謎の組織に誘拐された。その際千冬は決勝戦を放棄しドイツ軍と協力して一夏を助けだすのだが決勝戦の放棄により不戦敗となった。

「貴様がいなければ教官は大会二連覇できたことは容易に想像できる、故に貴様の存在を私は許さない」

千冬の経歴に傷をつけたことが許せないのは一夏もラウラも同じだ。だがそれで二人が戦うべきではない。

「また今度な」

「ならば戦わざるを得んようにしてやる！」

TAKA! KUJAKU!! KONDORU!!! TA~J
A~DORU~!!!

ドンッ!!!

刹那、ラウラの大型砲の一撃をリーナスが変身したタジャドルコンボがタジャスピナーで受け止めていた。

「ハア．．．たく生徒が密集してる空間で戦闘始めんな。それともまたボコつて欲しいのか？ドイツ人はDMなのか？」

「貴様．．．新任の教師の分際で知ったような口を．．．！」

「こら！その生徒、何をやっている！学年とクラス、出席番号を言え！」

アリーナのスピーカーから監督の教師の怒声が響く。

「ふん、今日は引こう」

ラウラはあっさりと去っていった。

「織斑、大丈夫か？」

「助かりました、先生」

「そーかい、ならいい」

「一夏、そろそろあがろつか。アリーナの閉館時間も近いしね」

「おう、ありがとな」

「いいよ、先に着替えて待ってて」

シャルルはいつも一夏と一緒に着替えようとはしないし誘っても断られる。

「たまには一緒に着替えようぜ」

「ほう、織斑お前そっちの気があるのか？」

シャルルが嫌がっていることを感じ取ったリーナスがタジャスピナを一夏に向ける。

「いえ、そんな事無いですっ！」

「なら強制するな、先に着替える面倒事を作るんじゃないやねえうつけ」

そう言つと白式を展開したままの一夏を掴んでクジャクウィングを展開し

「とりあえず罰として超音速・更衣室まで高速飛行ツアーだ！」

「どうわぁー！？」

高速飛行しながらアリーナを飛び去り、人間含めた障害物を巧みによけて更衣室へと向かう。

「ははは、すごいね先生は・・・」

「そうだな（ですわね）（そうね）（だよねえ・・・）」

このあと、リーナス・ゲイツを敵にまわすべからずという暗黙の了解ができたとか、出来なかったとか。

SIDE OUT

Linus SIDE

「はぁー、風呂に入りてえ・・・」

着替え終わるなり一夏がこぼす。ISがいくら操縦者を保護できるからとはいえさすがに音速飛行したからか顔が青い。

・・・確かに学園じゃあ寮の部屋全てにシャワーがあり、また大浴場なる所があるのだが男子が入ることに女子から反発があった。

が、一応副担任の山田先生が男性3人ということで色々考えているらしい。

「あの一、織斑くん、ゲイツ先生、デュノアくんいますかー？」

「俺と織斑だけならいるぞ」

「入っても大丈夫でしょうか」

「大丈夫だ、問題ない」

「では失礼しますねー」

噂をすれば影、山田先生がやってきた。

「どうしたんだ？」

「なんと今月下旬から大浴場が使えます。時間帯別だと色々問題が起こりそうなので男子は週2日専用日を設けることになりました！」

「本当ですか！嬉しいです助かりますありがとうございます山田先生！」

うれしさの余り躊躇なく手を握って礼を言いまくるとは感情の機敏を見抜けないにも程があるぞ織斑・・・山田先生が嬉しいのか顔を赤らめている。

「・・・一夏？先に戻っててっていったよね？」

シャルルが更衣室に入ってきたが言葉に棘がある。

「喜ベシャルル、今月から大浴場が使えるらしいぞ！」

「そう」

そっけない返事だが俺の能力で感じ取れたものは例えるとするなら似合わない仮面をかぶっているかのようなやりきれない気持ちと自

己嫌悪・・・だろうか。

これはめんどくさいことが起こる前兆かもしれないな。だがこれは面倒以前に「やるべきこと」のように思う。俺の感覚がそう告げる。

「えっと、先生と織斑くんは職員室まで来てもらえますか？書類を書いたりしてもらわないといけないので」

「オーライ」

「分かりました。シャルル、長くなりそうだから先にシャワー浴びてくれよ」

「うん、分かった」

「じゃあ一仕事してくるか・・・」

書類を書き終わり寮へ一夏と歩く。なぜ俺が寮に行くかというと部屋がまだ決まっていけないのだ。

一応俺は男性だし男子生徒の部屋なら間違いも起こりにくいだろうということだった。・・・ドロシーは布仏と相部屋だそうだがあの某黄色い電気ネズミのような女子とは縁があるのかいろいろな機会と一緒になるのだそうだ。

「はー、終わった終わった。部屋で何か飲みますか？」

「ああ、俺がコーヒー淹れとくよ」

一夏の部屋につくと早速INDEXより持ちだしたサイフォンセットでコーヒーを淹れる。シャワー室から音がするということはシャルルはシャワー中か。

「そっぴやシャルルがボディソープが切れてたって言ってたから新しいのを出してやらないとな」

サイフォンセツトに俺が見とれているタイミングで一夏がクローゼットからボディソープを出しシャワー室と隣接する洗面所に入っているとした。

「．．．！？おい、織斑．．．」

尋常ではない何かを感じ取り我に返って止めようとするが時すでに遅し。

しばらくして何かあった後洗面所から一夏が混乱した顔で出てきた。

「おい、何があった」

「．．．シャルルに胸がありました」

．．．Σ（。D。）

何かあるとは思っていたが予想の斜め上を行っていたので表情が固まってしまった。

S I D E O U T

真実は唐突に（後書き）

3人称SIDE多めになりましたね、もしかしたらこれからも3人称多めになるかも？

ちょこつとリーナスの能力が出てきましたがアレは能力開発の産物ではなくとある世界での一悶着で微弱ながらも得たものです。

今のところフルには使えません。

ドロシーは接近戦苦手でしたがだいぶ克服してきています。うん、さすがにお米食べただけで強くなるんだったら日本人は全員サ。ヤ人並さ・・・（遠い目）

病状悪化の件は医師と相談しつつできる限り更新させて頂きます。原作に関しては地元の土地事情故にどうなるかはわかりませんがなんとかしてみます。

属さぬメダル N o s a c r i f i c e (前書き)

今回はコンボソングでハブられてしまったメダルが出てきます。

属さぬメダル No sacrifice

L I N U S S I D E

俺は大首領から贈られ学園に持参したモアイ像（Amazon経由で届いた）に腰掛けシャルル達の話聞いていた。余り口を出したくはない。俺たちは「オブザーバー」のようなものだし過干渉はかえって良くはない。

少々混乱した顔で織斑がデュノアに聞く。

「えっと、どうして男のふりをしてたんだ？」

「その、実家のデュノア社の方からそうしろと言われたんだ。社長、父からの命令でね」

「命令って・・・親だろ？どうしてそんな」

「僕はね、一夏。愛人の子なんだよ」

ギリギリ

俺は端で聞いていても歯ぎしりせざるを得なかった。子供は親を選べない、俺たちは人工の生命だができることなら実験と薬漬けの暮らしではなく普通に生まれて暮らしたかったという思いもある。子供にとって親は神のようなものだ、それが悪魔なら絶望するしかない。

「2年前、母さんがなくなつたときに父の部下がやってきて引き取られたんだ。色々と検査する過程でIS適性が高いことがわかつて、非公式だけどデュノア社のテストパイロットをすることになったんだ」

その声には健気さと、前の世界で会つたあの男のようなどこか乾いたものがあつた。俺たちとてあの日々を思い出すだけでも辛い、レイモンドなどはそれから逃れる為に我欲の限りを尽くしている。だがこいつは、それでも淡々と話す。

「父に会つたのは2回ぐらいで会話は数回ぐらい。本妻の人には一度会つたけど『泥棒猫の娘が!』って殴られたんだ。母さんもちょっとぐらい教えてくれたら、あんなに戸惑わなかつたのにね」

とある世界の戦いで共に戦つた者のひとり是这样言っていた。

「おばあちゃんが言っていた。子供は宝物。この世で最も罪深いのは、その宝物を傷つけるものだってな!」

いくら親が罪深きものでも子供は罪深くは無いはずだ。現にシャルル・デュノアという人間はなんの罪も持たないのだ。

本心から理不尽だと思つた。

「それから少したつて、デュノア社は経営危機に陥つたんだ」

「え?デュノア社は量産型ISの世界シェア3位だろ?」

「成る程、ISの世代交代とEU全体の方針か?」

よくわからなかったがデュノアのISが一年生の専用機持ちの中

で何故か第2世代だということを思い出してから大体わかった。今は多くの国が第3世代型のISを開発・実験していると聞く。現にイギリスなどは第3世代を学園に候補生と共に出している。そしてなによりEU全体の方針が第3世代の開発及び移行に移っている。なんの不思議もないのだ。

「その通りです先生。．．フランスは統合防衛計画『イグニッション・プラン』から除名されていてね、第3世代の開発は急務だったんだ。デュノア社でも第3世代の開発をしてただけでラファールは第2世代機最後発でデータも時間も圧倒的に不足していて中々形にならなかったんだよ。それで、政府からの予算を大幅にカットされたの。そして、次のトライアルで選ばれなかったら援助を全面カット、IS開発許可も剥奪されることになったんだ」

「流れはなんとなくわかった、けどそれがどうして男装につながるんだ？」

「簡単だよ。注目をあびるための広告塔。それと」

「男なら織斑や委員会のIS操縦者である俺達二人と接触、本人やその使用機体それと俺の000のデータを盗み取ることができる」

一夏は特異ケースだし俺達の素性及び000やシヴァの一部データは各国の高官には知れ渡っている。公開していないデータを盗めばあわよくば各国が開発中の第3世代を軽く超えることもできるかもしれない。

「先生はすごいな．．．そうだよ、一夏と白式、先生とドロシーとシヴァのデータを盗んでこいと言われたんだよ。あの人にね」

その父親はたまたまIS適性の高かったデュノアを好きなように利用しているだけでそれをあいつが一番理解しているだろう。冗談じゃねえ。

「まあ、こんなところかな。でも二人にはバレちゃったし、きっと僕は本国に呼び戻されるかな。デュノア社は潰れるか他者の傘下に入るか、僕にとってはどうでもいいことかな。はあ、話したら何か楽になったよ。聞いてくれてありがとう。そして、今まで嘘ついてゴメン」

「いいのか、それで」

織斑が言う。

「いいはずがないだろ。いくら親でも子供の自由を奪う権利があるわけ無いだろ！親が居なきゃ子供は生まれない、そりやそうだろうよ。でもだからって親が子供に何したっていいって、そんな馬鹿なことがあるか！生き方を選ぶ権利は誰にだって、そいつ自身にあるもんだろ！親なんか邪魔される筋合いはない！！！」

「ど、どうしたの一夏？」

「すまん、熱くなりすぎた。俺は、俺と千冬姉は両親に捨てられた。でも俺の家族は千冬姉だけだし今更両親と会いたいと思わない」

「・・・そう、なんだ。ごめんね」

「気にするな」

「デュノア」

「何ですか？」

「子供はな、親の人形じゃねえ。確固たる意思を持ったひとりの人間だ。それを操り神を気取り我欲のままに子供を作り替えるものは親とは呼べん。それは愚者だ。人間は皆「選択」という能力を持っている、お前はどれが最良かを選び決めて行け、人に左右されるのは退屈だしそれを知った時足場がなくなる」

「でもこれはどうしようも・・・」

「学園の特記事項第21では国家や組織の介入は許されない、たとえデュノア社であってもだ。でもって俺も国連や委員会で権力は持つてるからその程度の問題は何とか出来るしデュノア社がやってることは社会から非難されてもおかしかねえ、じきに法と社会的な鉄槌が下る」

「つまり・・・シャルルは心配しなくても大丈夫ってことですか？」

「ああ、俺は裏方で動くしか無いけどな。織斑はデュノアを支えてやれ、守ってやれ。俺はいつまでもお前たちを見守れないからな」

「ありがとうございます。一夏、僕を守ってくれる？」

「当たり前だろ、シャルルは俺の仲間なんだからよ」

「ありがとうございます・・・」

デュノアの顔には歳相応の少女としての笑顔が浮かんでいた。やはり子供は宝物だと思った。

SIDE OUT

Dorothy SIDE

さすがに有事の時以外は余りメダル作りたくないんだよね．．．
アレは欲を削るしんどいし。どちらにしろあるメダルを作れば取り戻せるけどさすがに今は訓練の疲れもあつてか欲を削るメダルを作りたくはない。

「むー、どうしたものだろ．．．」

本音もといのほほんさんは先に食堂に行ってしまったのでひとりだけの部屋でゴロゴロしてるけど．．．

「かめさんが甲羅干してるみたい．．．」

思わず口から出てしまったけど．．．ん？カメ．．．あっ！

「少なくとも爬虫類・甲殻類・一部哺乳類のメダルなら．．．」

『欲を削らずとも作れる』

早速術式を組んでみる。基本的に術式は詠唱式だから特に道具がなくてもできる。後ジュースの空き缶8個を媒体にしてと。

「鱗と骨、鋏と針、1600の数と巨大な足、犠牲を払わぬメダルをこの場に！」

詠唱が終わるとどこからともなく8枚のメダルが現れる。やった成
功した！疲労感、欲望の喪失によるものだから無い。

さて、一仕事したし食堂行こつかな♪

S I D E O U T

属さぬメダル No sacrifice (後書き)

結局Amazon経由で届いたモアイ像(2話を参照)は椅子として機能。一夏達は最初驚きましたが慣れました。

欲を削らず作れる、というのはあの8枚はどの欲にもカテゴライズされないのでは?と思ったからです。ただカテゴライズされない代わりに欲の結晶とも言える人工物を媒体にする必要があります。

詠唱の際の術式はその生物に関連するものです。パンダなら個体数の1600とか。

ちなみにライダーではない世界で一度だけ天の道を行き総てを司る人とあの3人は会ってます。ディケイド経由ではありません。なのでピンクのスイカからディケイドは連想出来ませんでした。

この小説、雑誌付録のメダルが活躍しそう・・・w

ZEROSHIFT（前書き）

今回はようやくOF要素登場。

タイトルでプレイ済みの人には分かつちやうかも。

ZERO SHIFT

DOROTHY SIDE

新たなコアメダルを作った日の翌日。いつものように教室に入ると何やら騒がしい、何だろ？

「ねーねー聞いた？学年別トーナメントで優勝すると織斑くんとデユノアくんたちと付き合えるんだって！」

Σ（。Д。）

疑問に思っていた時クラスの某女子から唐突に発せられた一言に私は表情が固まってしまった。

「そ、それどこがソースなの？」

辛うじて言えた一言に対する女子の反応は

「本音からだよ、あの子情報通だもん」

あの子があることないこと伝えるのは知ってるけどこれはあとでOHANASHIしておく必要があるね・・・よし本音、後で覚悟していてね。

そう思いながら私は授業をやり過ごした。

3人称SIDE

放課後、シャルルと一夏とドロシーと箒の四人でアリーナに移動していると何やらアリーナが騒がしいので観客席に行くことになった。

「なんだろうね？」

「ああ、一体何があるのやら・・・ッ!？」

「くっっ!」

「ああっ!」

「鈴!? セシリア!？」

ステージ爆発が起こりISを展開した鈴とセシリアが出てくる。

損傷が激しく一部アーマーは完全に破壊されている。

その爆発の後ISを展開したラウラが出てくるが損傷は極めて軽微なものにとどまっていた。誰が見てもラウラがやったことは理解できるだろう。

「ッ・・・! シヴァ!」

ラウラの所業を目の当たりにしたドロシーがシヴァを展開し斬りかかる。ラウラは突然の事態に驚くもののプラズマ手刀で罅迫り合う。

「貴様・・・!」

「やりすぎだね、ちよつと本気出させてもらつよ!!!」

そつドロシーが言った刹那、一ドロシーの機体がラウラの機体の背後に移動した《・・・・・・・・・・・・・・・・》

「!？」

ラウラを始めアリーナにいる全員が驚く。がそんなことは今のドロシーには関係がない。

「はあっ！」

少し距離を取りGNフィールドを張ると同時ににスラスターからフイールド貫通式の炸薬ミサイルが大量に発射されラウラに向かう。

「ぐあっ！」

「甘いよ！」

ラウラがダメージで動きが止まっているとバスターソードとビームサーベルを持ったドロシーと大量のシザービットが煙の中からかなりの速さで出てくる。

「どりゃーあっ！」

「この専用機持ち風情がつ!!!」

またもつばぜり合いとなるがシザービットの斬撃がラウラのISにダメージを与える。

「うつ！？」

「専用機持ちはあなたもでしょ、悪いけどこれでラスト！」

その叫びと同時にシヴァが消え、レーゲンの認識できない死角に現れ手持ち武器とシザーによる斬撃をかましては消えるのを繰り返す。しばらくしてレーゲンのシールドエネルギーが切れ、ラウラのISが解除されると同時にドロシーもISを解除してラウラのもとに向かった。

「はぁ、少しは頭冷やせた？」

「黙れ！私より高い地位と能力を持つくせになぜあのような奴らと慣れ合うのだ！？」

「うーん、楽しいからじゃない？現に接近戦はシャルルのお陰で上達したし」

それを聞いたシャルルが少し嬉しそうな表情をしていたが今のラウラにはそれが疎ましく思えた。

「やはり貴様は闘う者ではないな！なぜそのような地位につけるのか疑問に思う」

「やめとけよ、ボーデウィツヒ。またボコるぞ？」

どこから来たのかオーズタカジャゾに変身したリーナスがいた。

「少々地位がある教師ごときが知ったような口を！」

「それと決着はトーナメントでつけろ、織斑先生がご立腹でトーナメント以外は私闘を一切禁ずるとか言ってた。さすがにお前を今の実力にした者を怒らせたか無いだろ？」

「・・・！だが」

「ほう、楯突くか。だがISも展開できない状況下でオーズに変身した俺にどう勝つつもりだ？ここが戦場だとすればお前の命などすぐに無くなるぞ」

「・・・了解しました」

「はいはい、とりあえずそういうことだ。それからドロシー、お前ゼロシフト使ったろ」

「あ、バレた？」

いたずらがバレた子供のようにちよろつと舌を出す。・・・なんか可愛い

「何ですか？ゼロシフトって」

一夏が率直に疑問を口にする。

「ゼロシフトってのは簡単に言うと瞬時に移動できる能力のことだ。光速に限りなく近いスピードで動き移動中は全く機体が損傷しない」

「すごい機能だね・・・」

シャルルが舌を巻く、何しろ瞬時加速でも光速まではいけないのだから。従来のISの常識を軽く覆している。

「さて、こいつらを保健室に連れてくか」

とりあえず数分間半ば空気と化していた人が人を保健室に連れていくことになった。

S I D E O U T

ZERO SHIFT（後書き）

まさかのゼロシフト登場。さすがにチートすぎるので正式な試合では使えませんが。

バスターソードはアルケーガンダムと同型です。接近戦苦手だったのがある程度克服できたので使いました。接近戦苦手だとただの鈍器になりかねないのである程度上達しないと危ないですからね。

最近ネクサスの短編書くか書かないか迷ってます。最近ネクサス熱が再燃したので。改心したダークザギが主人公のほうがいいのか最終回で「諦めるな！」って言われた子供が変身する短編が唐突に思い浮かんで離れなくなっています。

ネクサスのBDとか出ないかな・・・w

悪夢 — F a t e — (前書き)

今回は短めですがIS編のキーマン3人が登場します。まさかのあの人達です。

悪夢 — F a t e —

3人称SIDE

あれから保健室に鈴とセシリアは運ばれ保険医の先生に打撲したところに包帯を巻いてもらっていた。

「別に助けてくれなくてよかったのに」

「あのまま続けていれば勝てていましたわ」

「んじゃ聞くが、ほぼシールドエネルギーがなくAICで動きを止められてなぶり殺し、なおかつ敵はほぼ無傷。この状態でどうやって勝つつもりだった？勝てるんだったら言ってみな」

「う．．．」

リーナスが質問する。素人目で見てもあの状況では勝ち目がないとわかる。だが勝てると聞いてリーナスはどういう策があるのか、或いは策がないのか純粹に気になっただけだ。結局何もなかったのだが。

「好きな人にカッコ悪いとこ見られたから、恥ずかしいんですよ」

「ああ、なるほどな（ね）」

「？」

シャルルが飲み物を持ってきた時言った言葉で大体リーナスとドロシーは理解するのだが一夏は聞き取れないのか或いは唐変木故か頭上に？マークを浮かべてぼかんとしている。

「ななな何を言っているのか、全然わかんないわね！こここここれだから欧州人って困るのよね！」

「べべっ、別に私は！そ、そういう邪推をされると気分を害しますわ！」

ふたりとも顔を赤くしてカミカミな口調で否定するが、説得力がない。

「ま、せいぜい頑張りな。．．．あー、この音はまた面倒事が起こるか。変身」

TAKA！KUJAKU！！KONDORU！！！ TA～JA～
DORU～！！！！

リーナスが何故かタジャドルコンボに変身するので保健室の面々があっけに取られているが今のリーナスには先に起こる面倒事しか見えていない為

「んじゃーな。織斑とデュノアはこの先起こる災厄にでも備えとけ！」

ビュン！

逃げることを選んだのだった。

SIDE OUT

Linus SIDE

「ここは・・・」

疲れたので食事を取った後眠ったらずいぶんと懐かしい光景が広がっていた。森の中に建つ遺跡。とある世界でも同じことがあったと言うことは「あいつ」がここに来た？滅多なことでは来ないあいつが???

とりあえず前と同じ手順を踏む。遺跡の中の石像に触れる。すると思った通り、あいつが現れた。

「久しぶりだな、リーナス」

銀色の巨人がリーナスに向かって話しかける。リーナスたちにとっては見知った顔、ウルトラマンネクサス。真の名をノア。

「ははっ、そうだな。ノア」

「ドロシーのところにもザギが向かっている。こうなっただのは少し差し迫ったことがあってだ。手短に言おう。―光の国の怪獣墓場から、怪獣が大量に脱走した。それもボガールがこの世界に来てしまった。最も飛来したのが1体だけなのが幸運だが」

「なんだと？」

告げられた真実は予想していたとはいえ由々しきものだった。怪獣墓場からの怪獣の脱走、その内の一体がこの世界に飛来。しかもそ

れがボガールだという。

「お前も知つての通り、ボガールは惑星アープを滅ぼしたこともある。それにありとあらゆるものを捕食する。このままではこの世界の地球は滅亡するかもしれない。この世界の兵力、ISをでも倒すのは困難だろう。だから協力してくれないか？」

「ああ、そういう事ならいつでも協力してやる」

「そう言ってもらえると助かる。すまないが私は前の世界の戦いと空間跳躍で力を使いすぎてしまっている、故に真の姿には当分なれない。戦いづらいとは思うが、ネクサスで戦ってくれ」

「オーライ、んじゃまたよろしくな」

「ああ」

そこで夢が終わる。枕元をちらと見るとエボルトラスターが置かれていた。

S I D E O U T

D o r o t h y S I D E

「まさかこんなことが・・・」

にわかには信じられなかった、ボガールが来てそれを追つてザギとノアが来るなんて。ちなみにザギは最後の戦いで生き残った後改心して今は光の国でウルトラマンとして戦ってたけど有事だからってことでこの世界に来たらしい。

「タッグマッチもあるっていうのに・・・」

かなりタイミングが悪いけど敵さんは待ってもくれないだろうし、何より本音がちょうど寝てる時間帯に起きちゃった。

そういえばタッグマッチで思い出した。リーナスが逃げた後大勢の女子がタッグマッチの噂の優勝賞品目当てでシャルルと一夏にタッグマッチでタッグ組まないかって保健室に押し寄せてきてたけど、シャルルと一夏が組むってことになって解決したんだっけ。ちなみに私はルームメイトということで半ば強制的に本音とタッグ組むことになった。

でもさ、コンボをわざわざ使って逃げることもなくない？

S I D E O U T

悪夢 — F a t e — (後書き)

まさかのウルトラ要素。もともとウルトラ勢を出したいというのはあったし、彼らが世界を回っている「ノアと会っている可能性もなきにしもあらずなので。

ザギさんは地味に生き残ってることになってます。その後改心しているという設定になっているので今回はノアと一緒に来ました。

今回来たのはボガールです。一体だけが次元跳躍で来ています。IS編の鍵を握る人ですがしばらくは出てきません。ボガールのみは。

次回はクラス対抗戦となります。Keywordは「vomit
ing」

強襲とネクサスとザギ | Intercept | (前書き)

ついに学年別トーナメント。

今回はノア（と言ってもネクサスの状態だけど）とザギのお披露目会です。

ヤプールはでませんが・・・？

あと大幅に展開が変わっております。嫌悪感を覚える方はbackをお願いします。

強襲とネクサスとザギ ― Intercept ―

3人称SIDE

ついに学年別トーナメントを迎えた。観客席は各国のお偉方や企業や研究所の人間などが揃っている。

が、そんな中でも

「ZZZZ・・・」

リーナスという男は眠っていた。しかも教師用の席ではなく観客席の目立ちにくい所で。

「う、ううつ・・・」

「ZZZZ・・・（ハッ!）」

謎のうめき声で目を覚ました。（音は小さいがリーナスの聴力の良さで分かった、誰も気づいていない）その先にいたのは

「ファントム星人・・・なぜお前が」

「・・・たすけてくれ、・・・インペ、ライザーと俺が・・・ボガールに・・・吐き出されて・・・」

どうやらボガールが捕食した怪獣を鵜飼いの要領で放っているらしい。インペライザーとファントム星人が吐き出されファントム星人が怪我を負ったようだ。

「分かった、ついてこい（Intercept）」

リーナスの能力で色素を無効化して透明にした状態で変身して大丈夫そうなところまで運びつつドロシーと連絡をとる。

「んー、リーナスどうしたの？」

「ボガールのやつがインペライザーとファントン星人を放った、ファントン星人の方は怪我してるからこっちで治療しとく。アリーナに動きがないか確かめてくれ、俺もすぐ行く」

「りよ、了解！」

連絡を撮り終わると早速治療をする。

「ネクサス！」

人間ほどの身長でネクサスに変身するとファントン星人に向かって光を照射する。すると傷が治っていく。

「ありがとう！きゃっほーい！やったやった！」

傷が治ったファントン星人がはしぎまわるがリーナスはインペライザーに動きがないかどうかを見に行くため、体中から色素が抜け透明になったファントン星人を連れてアリーナに向かった。

「おいおい、一難去ってまた一難ってやつかよ・・・」

リーナスが来たときにはシュヴァルツェア・レーゲンにラウラが囚われようとしているところだった。助けようと観客席から身乗り出すが

ドンッ！

．．．最悪のタイミングで悪魔、インペライザーが降り立ってしまった。

「な、なんなのアレ！？」

会場が一気にパニックになる。こうとなればリーナスとしては不本意だが

「おい織斑！お前はデュノアにエネルギーを分けてもらえ！ボーデウィツヒは任せた！」

一夏とシャルルにラウラを任せるしかない。大声で叫んで作戦を伝える。

「は、はい！」「」

二人が了承し、シャルルが白式にエネルギーバイパスでエネルギーを分け与える。

「Intercept！」

リーナスがドロシーとリーナスの周囲の光をうまく屈折させ二人が消える。そして

「ザギ！」

「ネクスス！」

2人が変身した2体の光の戦士が降臨する。

「な、なんだこれは？」

「銀色と黒の、巨人？」

「一体．．．？」

避難中に出現したウルトラマンに会場は騒然とするがそれもつかの間。

「ジュワ！」

ネクススがジュネッス（赤）になり腕から光線を出してメタフィードを張る。するとそれに包まれたインペライザーとザギ、そしてネクススの姿が消えた。

「何だっただんだ．．．」

避難中の観客席からそんな声が聞こえ、観客が避難を再開する。そしてアリーナでは

ズバッ！

黒いISがまっぴたつに割れ、眼帯が外れたラウラが出てくる。それを一夏が受け止め、VTシステムの事件は終わったが・・・

〔METAFIELD〕

「ジュアッ！」

ネクサスがパーティクル・フェザーを打つもインペライザーには通用しない。

（さすがに硬いね・・・でもこれなら！）

「デュワッ！」

ドンッ！

間髪入れずにグラビティ・ザギを放っても上半身に傷をつけた程度に留まった。

（くっ・・・）

（ドロシー、凍らせろ！）

（そっか、なるほどね！）

念話で会話するとザギがザギ・ブリザードをインペライザーに打つ。さすがにこれは効いたのか凍ってしまふ。

「ジュワッッ！！！」

ボードレイ・フェザーで四方八方から光の刃での攻撃をジュネッスが浴びせると

「デュワァーッ！」

高速移動したザギが炎をまとったパンチ、ザギ・インフェルノをぶつける！

「　？x！」

さらに上空に吹っ飛んだインペライザーに向かって

「「デュワッ！！！！！！！」」

ライトニング・ザギとオーバーレイ・シュトロームを照射する！！！！

「♪　？<&　%¥\$~~~~~！！！！！！！」

ボンッ！

インペライザーは跡形もなく消滅すると同時に変身とメタフィールドが解かれた。

＼ARENA＼

無人の観客席にリーナスとドロシーが降り立つ。

「終わったみたいだね」

「ああ、一応Interceptとメタトロンの増幅、GN粒子とハックでなんとか誤魔化せたとと思うが」

メタトロンはある種のカメラやレーダーを誤魔化せるしGN粒子はレーダーを無効化する。それにリーナスの能力であるInterceptで光を屈折させ、倉庫にある機体に搭載されているAI、DELPHIでハックし映像を差し替えるということをしていたのでバレずに済んだようだ。

「とりあえず事情聴取あるだろうから行こうか」

「ああ」

こうして、唐突な戦いは終わりを告げた。

強襲とネクサスとザギ ― Intercept ― (後書き)

リーナスの能力初登場。Interceptという能力で物体や物質に他の物質を割りこませたり物質を操ったりすることで様々な状況に対応できます。

前回のKeywordは英語で「嘔吐」の意味なのですが、ボガールが鵜飼いの要領で捕食するも消化しなかった怪獣を吐き出す為そうしていました。今回で言うとファントム星人とインペライザーですね。

ボガールはエンペラ星人とも仲が良かったですし1匹ぐらいは食べてそう。怪獣墓場にいたとすれば尚更。

なぜファントム星人かというと個人的に大好きだからです↑ 可愛いので(苦笑)

ザギは基本姿は変わっていませんがエネルギーが闇↓光に変わっています。更にウルティノイドなのでさらなる姿も？

番外編：Who am I? (前書き)

遅れてすみません。

今回は作者の息抜きも兼ねたギャグ回です。中の人ネタ多めでノアについての自己解釈もあり、許せる方はどうぞ。

あの伝説の3匹が登場します(笑)

番外編：Who am I?

3人称SIDE

あの後、シャルル改めシャルロットは本来の性別で再入学しラウラは一夏にデレるようになりウルトラマン（余談だが奇しくも生徒がかつて回った世界と同じ呼称で呼んでいるそうだ）やボガールについで委員会への報告も済ませた。そしてファントム星人は委員会への報告を済ませた後リーナスの部屋でペットとして飼われる？（さすがにあの容姿では人間と言うより動物と言わざるを得ないので）事になった。

そんなある休日のこと。

「……！怪獣！」

エポルトラスターが反応している方向に向かうドロシー。怪獣がいると思われる敷地内の死角。そこには

巨大なもや×とボールが3つ浮遊していた。

「なんだろこれ？」

見たことのない怪獣。だがイフの件もあるので慎重に扱わねばならない。だがこれは大いなる災厄の始まりでしかなかった。

―同時刻：IS学園職員室

「（怪獣か・・・）ヤボ用ができたんでしばらく抜ける」

「分かりました」

「ところで山田先生」

「何ですか？」

「この端末どうやって操作するんですっけ？」

「織斑先生、これはここを・・・あれ？どうするんだっけ？」

「ええいこついうのは当てずっぽうで」

カチッ

『＜1年生生徒名簿＞フォルダーを削除しました』

「・・・」

一年生の生徒名簿、消滅。

「ええいこつなったら片っ端から！」

カチッ

『＜?erｇ専用＞フォルダーを削除しました』

削除メッセージにはなぜかR-18な画像（しかもBL）が写って

いた。

「．．．誰だこんな卑猥なゲームを学園のサーバーに入れたのはア
！！！」

「お、織斑先生落ち着いてください．．．」

ほんとに誰だe r g（ご丁寧にもB Lゲー）を学園の端末に入れた
の．．．

—e r gデータ消去と同時刻：I S学園アリーナ

1年の専用機持ちで空中で模擬戦をしていたがドロシーが抜けてしま
ったので残りのメンバーでやっていたところに悲劇が。

「これ．．．どうやって操縦するんだっけ??？」

「さ、さあ．．．」

「私もわからんぞ嫁」

「僕もわからない．．．」

「私にもさっぱり．．．」

「全くわからんぞ一夏」

全員がI Sの使い方を失念。

「そもそも俺は某ロリコン属性持ちののエウゴにいた大尉に名前が似てるキャラとしてMSとか言う物に乗っていた気が．．．」

「私は某グリードとして別のグリードの仲裁役を．．．」

「僕は死後の世界で天使をしていた気が．．．」

「私はとある高校の軽音部でボーカルとベースを．．．」

「そーいえばとある双子のセリフ部分を某ゲームでやっていたような．．．」

「む．．．昔魔法使い級のLEVEL7でエスパーを大量に洗脳していた気も．．．」

全員がここではない世界での自分の役割に思いを馳せているが問題は「ISをどう扱うか」だ。

「とりあえずガン×ム！！俺に力を貸せ！！ってノリで地上に降りるぞ俺は！」

「いや多分それはガン×ムじゃないと思うよ一夏！アンテナないしツインアイも．．．」

「いやアナザーには『俺がガン×ムだ』とか言う奴もいるから無問題だと．．．」

論争に構わず一夏、急降下。

ズドーン！

「大丈夫！（か！）（なの！）（ですよ！）一夏／嫁よ／一夏さん！？」

「大丈夫だけど・・・アレ、あの高さから落ちてもダメージがない？」

シールドエネルギーのことも忘れてしまっているのでダメージを負った理由がわからない。

―数分後：IS学園アリーナ

「HandSonic Ver.2」

ガシンン！

シャルが某アニメの天使の武器の名前を言いながら近接ブレードで斬りかかりセシリアが

「もう子供だましは効かないのよ？」

某グリードのセリフを言いながらインターセプターで受け止める。

一方後ろでは鈴が名前の読みが同じVOCALOIDの曲を歌いラウラがこの場の人間を洗脳しようとするがうまくいかない。一夏はバナ×ジのものまねをして遊ぶ。何このカオス。

「お前たちはいつまでそのネタを引っ張るのだ！？」

記憶を失おうと唯一の常識人は箒だけだった。

ーアリーナでのカオスと同時刻・モヤツとボールらしきものの前

「どうやって変身するんだっけ？とりあえずこうかな？？」

「ドロシー！って何やってんだお前」

リーナスが来てみるとエボルトラスターの鞘を抜かずに掲げているドロシーの姿が。

「ねえ、リーナスどうやって変身するの？」

「そんなの朝飯前じゃないのか？変身！」

TAKA！KAME！！KANGAROO！！

・・・変身という意味では間違っていないがそれはウルトラマンではなく仮面ライダーだ。しかもメダルのチョイスが適当。

「もーそれじゃないってばー！！！」

「マジで？」

「マジで。っていうかこれ折っていい？わかんないから正直邪魔なんだけど・・・」

『オイ待て俺が死ぬだろそれ・・・』

「よし折っちゃおう！」

『オイ待て』ウルウル

さすがの最強の悪役と言われたザギでもエボルトラスターの状態では無力。そんな状態で折ってしまったえば当然死ぬ。

「まあ異論はない死蔵品とついても邪魔だから折っても構わんと思う」

かつて共に戦った（まだ書いてませんが）仲間なのに怪獣の能力でこの扱い。故にかの元暗黒破壊神ダークザギも死の恐怖とショックから泣きわめくしかなかった。

『待てやー！！！（涙）』

ギユッ

ドロシーがエボルトラスターの両端を持つ。かつて光の国を壊滅させたザギの余生ももう1分どころか30秒もないだろう。

『はは．．．どうせ俺はノアの模造品という時点で闇に堕ちるしかなかったのさ．．．おまけにデユナミストは旧知の仲で打ち解けられるかと思ってたらアホ化した拍子に殺されるしさ．．．俺地獄に堕ちんのかな．．．orz』

ついにウルティノイド故に常識人だったザギもやさぐれてしまった。しかし

シュパン！

「へ？」

「は？」

ドン！

折ろうとした拍子に鞘が抜け、ドロシーがザギに変身する。モヤツとボールは興味津々のようだ。

「シュワ？」

『よかった俺死なずに済んだｗｗｗ』

「？ドロシーは？？？ってなんだあのでかいの！？」

『恐らくISS学園の用務員』

とうとうリーナスがウルトラマンの存在を失念してしまった時に助け舟としてノアがエボルトラスターから助言を．．．と思いきやザギと違い有機生命なので思いつきり化け猫の効果を食らっていた。

「なるほどなってお前誰だよ、さっきからこのアクセサリーから声が響く」

『そういえば私は誰だろうな．．．スパイダーオルフェノクにムツコロされた流星塾生？？？』

『ノアまでボケやがった！つかお前チートウルトラマンだろチート

なセブンの息子にチート武器授けるっ！事してたるその上俺も倒したろうが俺そのコピーつかパチモンだけどさ。555じゃ中の人はずうだったけど少なくともこの作品とウルトラシリーズじゃお前はモブキャラじゃねえ！！！」↑ウルトラ語を日本語に翻訳しました

ザギがウルトラ語を使つての猛抗議。それはザギだつてノアに期待していたのだ自分のオリジナルだしチートパワーでなんとかなるだろうと。しかし肝心の説教もノアは知らん顔という有様である。これが意味するのは

『まともなの俺だけじゃねえかあああ！！！！』

「しゅわ？（アレなんか頭の中で声が聴こえる。でも空耳だよね）」

ドロシーもウルトラ語が理解できるはずなのだが怪獣によってよくわからない空耳にしか聞こえない。

「（興味失せてきたわ、仕留めとこ）」

モヤツとボールこと宇宙化猫タマ・ミケ・クロも興味がなくなってきたのでビームを放つ。

『コノヤロオオオオオオオ！！元最強の悪役舐めんなアアア！！！！！！』

「シュワアアア！？（体が勝手に！？）」

「ミヤアアアアアアア！？」

ザギが怒りに任せてグラビティ・ザギを掃射し宇宙化猫タマ・ミケ・

クロをビームごと消し炭にし見事勝ち勝ったのだが。

―翌日：IS学園職員室

「ぐぬぬぬ、何故私がこんなことを」

（千冬姉が始末書なんてな）

（これまた珍しい）

（教官が始末書など何かの間違いだ）

（千冬さん・・・？）

（織斑先生でもこう言うことあるんだね）

（先生・・・眉間にシワが寄ってます）

「ナニカイッタカ？」

「……………いえ何も……………」

1年生の名簿を消したので珍しく始末書を書く千冬とアリーナを壊したので反省文を書く代表候補生組なのだった。

番外編：Who am I? (後書き)

書いてみて一言：面白くない

声優ネタですが

一夏：ガンダムUCのバナージ

第：けいおん！の漣

セシリア：仮面ライダーOOOのメスール

ラウラ：絶対可憐チルドレンの雲居悠理

シャル：Angel Beats!の天使ちゃんこと立華かなで

鈴：VOCALOIDのゲームでのリンとレン

ちなみに最終回ノアに変身した弧門隊員は仮面ライダー555に流星塾生の役で出てます。スパイダーオルフェノクこと澤田亜紀に殺されましたが・・・

今回出てきた怪獣は「宇宙化猫タマ・ミケ・クロ」といって有機生命体の記憶能力や知能を低下させる能力を持っています。

ザギは人工ウルトラマンなので効きませんがノアには効きました。ノアは有機生命体ではないか？とちらっと思っただけです。マックスにも露骨に効いてTIMの命のポーズしたりしてたので（苦笑）

とにかく今回はザギさんが不憫。お詫びに出番増やそうかな．．

IS学園での「ウルトラマン」呼びですがヒーロー好きの簪が言い出したのがのほほんさんの琴線に触れのほほんさんの人脈により広がった呼称です。「なにそれかつこいー」って感じで。

寝れないのもう一発頑張ってストックの方書き溜めてみます終盤2話以外殆ど無いというのはちよつと。それと早くラウラにギャグ回ではなく本編で一夏を「嫁」と呼ばせてあげたいので↑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5549w/>

Angel and World with selfish

2011年11月15日17時39分発行